

## 史学科

### 1. 教育研究上の目的

史学科は、歴史学が蓄積してきた成果を受け継ぐとともに、あらたな時代の要請に応えられる歴史研究を目指し、学生には文献など諸資料の分析をつうじて自主的な歴史のとらえ方を身につけさせるとともに、現代社会の状況に的確かつ柔軟に対応できる思考力を備えた人材の育成を目指す。

### 2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

史学科では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「学士（史学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 日本史、東洋史、西洋史の3分野にわたる歴史学の過去の成果やそれぞれの方法論の概略を学修した上で、学生各自が専攻する分野の過去の研究成果や研究法に関する具体的かつ十分な知識を有し、史資料を蒐集、読解して研究を進めることができる。

（思考・判断・表現）

2. 過去の間人社会の多様なあり方を、具体的な証拠（史資料）に基づいて論理的に分析した上で、結論を出し、その結論を論理的な文章（卒業論文）や口頭で表現できる。
3. 現代社会の多様な状況を論理的に分析し、結論を出して適切に対応できる。

（関心・意欲・態度）

4. 過去の社会のみならず、現代社会の諸問題に対しても、常に独自の問題意識に基づいて解決すべき課題を見出し、その課題を解くために適切な資料を自ら蒐集し、それらの論理的な分析から結論を引き出すことができる。

### 3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

史学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 知識獲得のために各分野の概説・特殊講義を数多く広範囲に設定する。また、各分野の研究史や史資料の調査・読解法を学ぶため、「史学概論」「史資料入門」や1年次に「基礎演習」を配置する。さらに、資料や外国語文献の読解を通じて技能向上を図るため、2～3年次に各専門分野の演習を配置する。（知識・技能）
2. 思考・判断・表現力を養うため、各学年の「演習」で個人発表の機会を設定する。（思考・判断・表現）

3. 知識・技能及び思考・判断・表現の集大成として4年次の「四年生演習」では各学生の卒業論文の途中経過を報告し、卒業論文を執筆する。(知識・技能/思考・判断・表現)

(教育方法)

1. 学生の主体的学習を支援できるよう、アクティブ・ラーニング等の教授手法を積極的に取り入れる。また、1年次の研修旅行では、訪問地の史跡の調査を自主的に行う。
2. 少人数教育を演習、実習等で実施し、学生の能力・資質に応じた学習ができるようにする。また、卒業論文のテーマ設定は、各学生の関心を尊重して行う。さらに、学生が持つ漠然とした関心を聞き出し学問的課題へと導き、学生の興味関心を育んで学習意欲や態度を向上させる。
3. 準備学習(予習・復習)の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。その一貫として、文献検索方法も指導する。
4. 教員のオフィスアワーを設けることで、毎週特定の時間帯に、学生は自由に教員に面談のアポイントメントをとることができ、授業内容や卒業論文に向けての学習についての質問、履修計画や就職相談など、様々な相談にきめ細かく応じる。

(教育評価)

1. 史学科のカリキュラムの評価は、卒業・進級判定、科目ナンバリング、GPAの活用、在学生調査、シラバス記載内容等の実態把握に基づいて総合的に行う。
2. 学生個人の教育評価は、卒業要件単位数の充足、卒業論文等の評価、GPAによる判定、社会と関わる諸活動の成果等の実態把握に基づいて総合的に行い、学修支援に生かす。

#### 4. 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

史学科では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 高等学校までの履修内容のうち、国語、外国語、数学、地理歴史、公民について、基本的な内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

(思考・判断・表現)

2. 先入観なく、人間社会の多様なあり方を認識し、あくまで証拠(史資料)に基づいて合理的に判断し、その結果を論理的に説明できる。
3. 社会で起こっている諸現象に対して、日常的に証拠を考えたり、その現象が起こる理由や影響を考えたりする習慣を高校生らしい感性で身につけている。

(関心・意欲・態度)

4. 自らの研究課題を見つけるため、高等学校の授業の他、自発的な読書や博物館等の見学、ボランティアなどの課外活動を積極的に行い、過去の歴史的な社会のみならず、現代社会の諸現象への問題意識を持っている。

以 上